

大分県宇佐市との友好都市提携について

歴史的背景

現在の大分県宇佐市にある宇佐神宮から天平勝宝元年（749）開眼目前の大仏を拝し、その造営に協力するため、八幡神が奈良に迎えられ、大仏殿の近くにまつられた。これが現在の手向山八幡宮である。

このとき使われた輿（こし）が日本の神輿（みこし）の始まりとされている。

また、当時の宇佐市は大陸文化が入ってくる窓口であり、奈良の都とは密接な関係があった。現在、宇佐市と韓国の慶州市はこの史実により友好親善都市の盟約を結んでいる。

かつては宇佐神宮の放生会でも行われていた細男舞（せいのおまい）が、春日若宮おん祭でも演じられているなど、奈良市と宇佐市は古くから深いつながりがあった。

最近の経緯

平成14年10月5日（2002） 天平勝宝4年（752）の大仏開眼供養から数えて1,250年目の年に、史実に即して「宇佐八幡神輿フェスタ」が開催され、宇佐市民約500名が神輿を担いで東大寺に参拝された。

平成15年2月17日 「奈良市民の船」で大川市長をはじめ市民80名が宇佐市を訪問

平成15年 「東大寺サミット」に宇佐市が加入

平成15年10月5日 「神輿フェスタ」1周年を記念して、時枝宇佐市長らが、奈良市と共通の市の木に指定しているイチイガシを東大寺境内に、大川市長や橋本管長と植樹。

平成16年3月5日 「奈良市民の船」で大川市長一行51名が宇佐市訪問。

この間に、友好都市の盟約締結の機運が盛り上がり、今日に至った。

日程

平成16年7月30日（金） 宇佐市において、東大寺サミットが31日までの予定で開催されるが、その機会を活用して、締結することになっている。

場所 宇佐神宮参集殿貴賓室

奈良市宇佐市友好都市調印式

日 時：平成16年7月30日（金）午後3時30分～

場 所：宇佐神宮参集殿貴賓室

調印者：

（奈良市）奈良市長	大川 靖則
（宇佐市）宇佐市長	時枝 正昭
（立会人）大分県知事	広瀬 勝貞

参列者：

（奈良市）奈良市議会議長	岡本 志郎
奈良市助役	南田 昭典
東大寺別当	森本 公誠 他
（宇佐市）宇佐市議会議長	久保 繁樹
宇佐市助役	森 好弘
宇佐市収入役	大園 清一郎
宇佐神宮宮司	到津 公齋
他地元選出大分県議会議員、住民代表	

宇佐市の概要

宇佐市は、大分県の北部、国東半島の付け根に位置している。

北は瀬戸内海（周防灘）に面し、西は中津市・本耶馬溪町等に、南は院内町・安心院町等に、東は豊後高田市に接している。

市内には全国4万余の八幡神の総本宮として有名な宇佐神宮をはじめ、県立宇佐風土記の丘の古墳群など多くの文化財が点在し、かつての名横綱『双葉山』の生地としても知られている。

昭和51年には全国に先駆けて「文化財保護都市」を宣言し、豊かな自然と文化財を保存、活用したまちづくりを進めている。

・人口 48,951人（男22,623人、女26,328人）
H16.7.1 現在

・世帯数 18,668世帯

・面積 178.33平方キロメートル

・市の花、木 ツツジ、イチイガシ

・姉妹・友好都市

韓国慶州市と友好親善都市締結 1992年（平成4年）7月 3日

岡山県和気町と姉妹都市締結 1989年（平成元年）7月31日